

教務だより

2011年3月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

受験に勝利する方法

茗溪塾塾長 宇野雅春

長い受験の季節が終わりました。毎年の虚脱感が、今年は薄れた感じがします。あれこれと思い悩むことがないということも、年のせいで感性が鈍ったというよりは、悔いなくやったという気持ちの方が強いのです。もちろん全員合格が理想ですが、合格=勝利ではないということにも、今年は気づかされたせいかもしれません。まず最初に考えること。受験に合格したのは、どんな生徒だったか？ということです。どの時点にせよ、自分で合格したいという気持ちがない生徒はやはり成功しません。これは、「主体性」ということです。例えば悪いかと思いますが、病気でさえ自分が治りたいと思わなければ、治らないことが多いといえます。第一に「自分がどうしたいのか？」ということです。これがない人は、ひたすら一つ一つの出来事に、振り回されます。「どうせ、自分なんか！」と思ったら、全てがそこでおしまいということ。それが「甘え」だということに、なかなか気がつきません。自分の事だから、自分で責任を取っていると思っています。いずれ、それは誰かの手助けに頼る事になるはずなのです。3月に全ての学年がスタートを切ります。ここで、ひとつ生徒の諸君は「自分がどうなりたいたいか」を考えてほしいと思います。どんなきっかけでもよいのです。このことに気がつく時期によって、成功不成功が決まります。

2月の終わりに、今から10年前に中学受験をしたS君という生徒が不意に訪ねてきました。あまりにもしっかりとした青年だったので、昔の面影がありつつも、誰だったかをすぐには、思い出せませんでした。「無事に就職が決まった」という報告に来たということでした。S君が言うには、中学受験は失敗をして第一志望どころか結局一番偏差値では低い学校に通うことになったといえます。でもそこで、その悔しさをバネに努力をした結果、大学受験で成功し、就職も第一志望のマスコミに決まったということでした。「不合格にしてくれて有り難うございます。」的な感じ？なのですが、私の方はとても嬉しく、また色々考えさせられました。去年「未来は自分がつくるもの」という文章をこの時期に書きましたが、改めてそのことを確認できたような気がしました。受験で勝利するというと、どうしても「第一志望に合格する」ということになりませんが、実際は違います。

高いレベルに合格した生徒でも、生活習慣で失敗して結局は、付属にしながら、大学進学さえ断念するという例もあります。あんなに喜んだ「感動」が逆に、苦しみに変わってしまうのは、なぜでしょうか？つまり自分の努力の分に相応した喜びは、次につながるけれども、努力が薄いまま獲得した合格は、次の努力目標を見失う結果になるということです。努力を積んで、よい生活習慣を身につけそこから次のステップに向けてスタートを切る姿勢が一番大切なのだと思います。「受験勉強」を可哀想と思う親心は、決して子供のためにならないということです。受験が大変だったから春は思いっきり遊ばせようという親の気持ちは、危険にも思えます。「かわいい子には、旅をさせる」という昔の格言は、絶対に当たっていると思います。受験に勝利するということは、次が保証されるということです。次の課題が突きつけられてくるのは、これから人生をスタートさせていく生徒達にとっては最も重要なことのはずです。

その第一歩が、「自分がどうしたいのか？」を真剣に考えるということです。しばし、羽を休めたら、また飛ぶということを繰り返すということ。子供達にはそのことを教えていく必要があると思うのです。楽しむことや、今世の中にある素晴らしい物もたくさん与える必要はあると思いますが、それよりも自分の力で飛ぶ方法を教えるということ。なんだか偉そうな言い回しになってしまいましたが、これからの時代には最も必要なことに思えます。3月です。学年の切り替え時期です。生徒達は4月には新しい生活に誰もが入っていきます。「主体的に取り組むこと」が本当の意味で受験に勝利する第一歩ということ、この時期は是非考えてほしいと思っています。